

担い手の確保・育成による 果樹産地の維持発展

活動期間：令和3年度～令和4年度

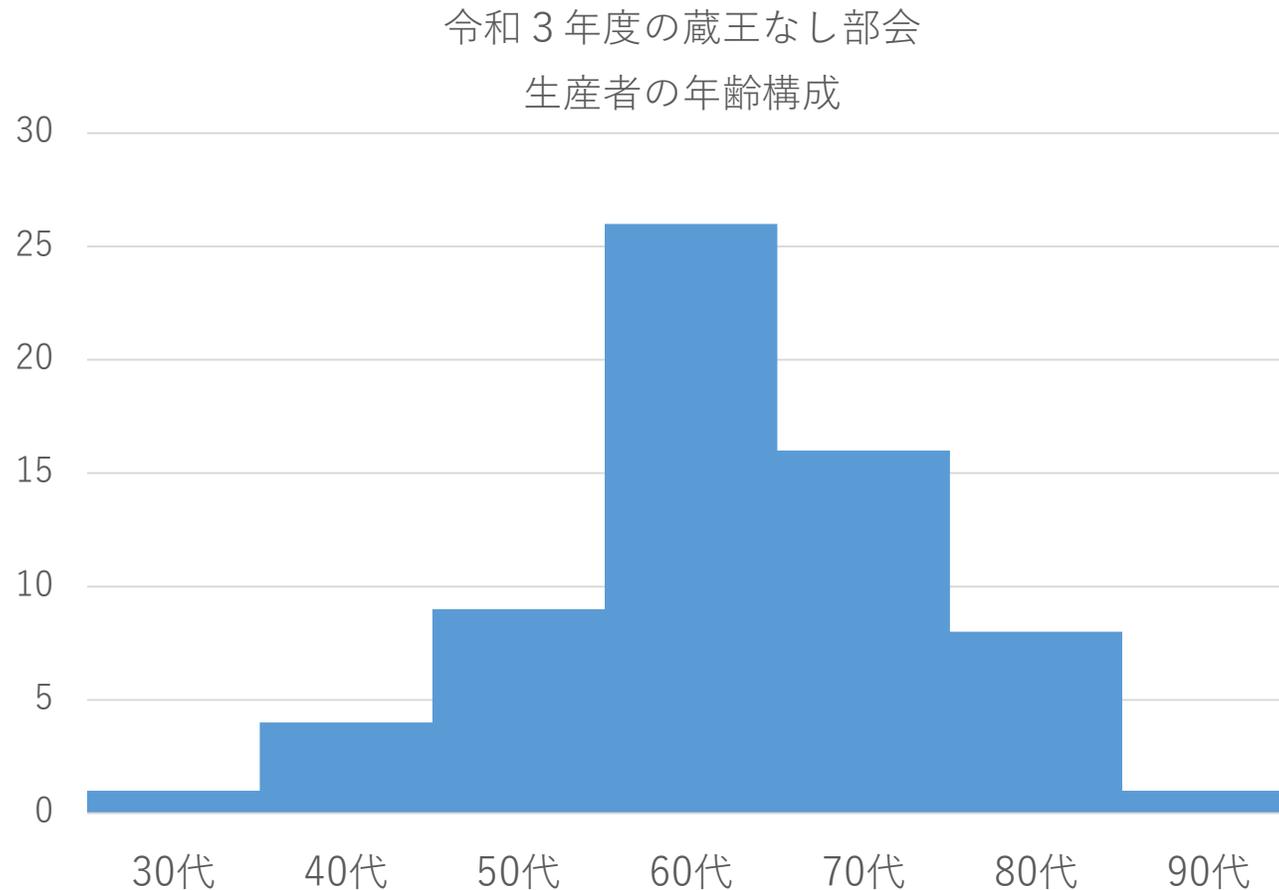
対象：JAみやぎ仙南 角田梨部会 2名
蔵王なし部会 3名
若手果樹生産者 8名

〈チームメンバー〉

©高橋真紀, 半沢康弘, 飯沼千史, 大森裕俊, 佐々木彩乃

1. 課題の背景

1 果樹生産者の高齢化や担い手不足など，5～10年後の産地の維持が困難。



⇒R3

優良事例調査研究，全戸聞き取り調査による情報収集→現状分析

⇒R4

優良事例調査より，給付金を活用した研修生の受け入れと継承

1. 課題の背景

2 後継者不在の果樹園における円滑な事業継承などの体制整備や、後継者として果樹栽培を始める若手生産者の育成が課題となっている。

⇒R3 技術支援（黒星病防除なしナビの活用），若手対象の研修会・交流

⇒R4 若手対象の研修会・交流会



令和3年登米での先進地視察研修・交流会₃

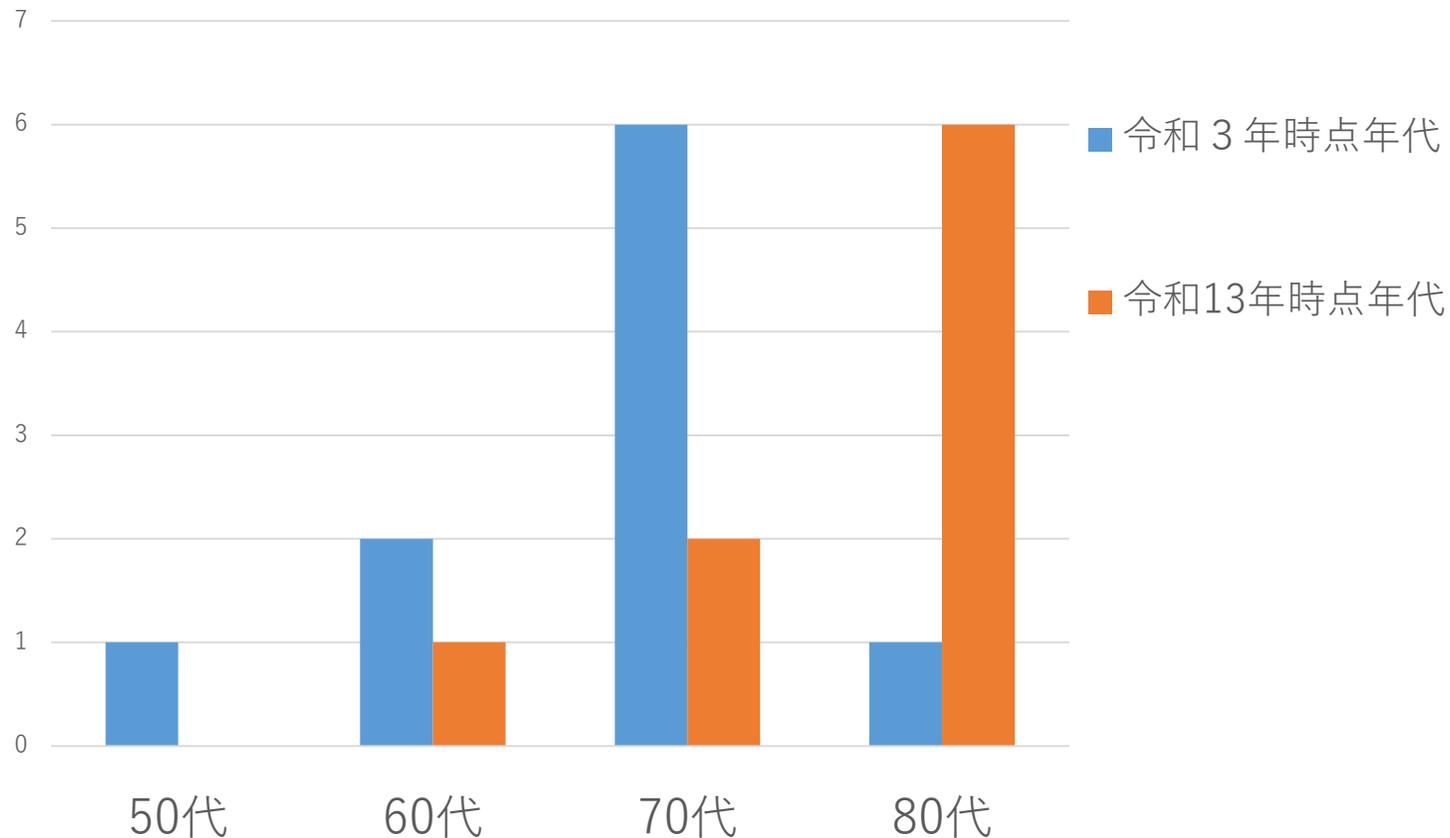
2. 対象者の概要

◎ J A みやぎ仙南角田梨
部会 2人

(部会員10名 平均年齢
70.7才)

R2の栽培面積：15ha

角田なし部会 年齢構成の比較 (R3⇒R13)



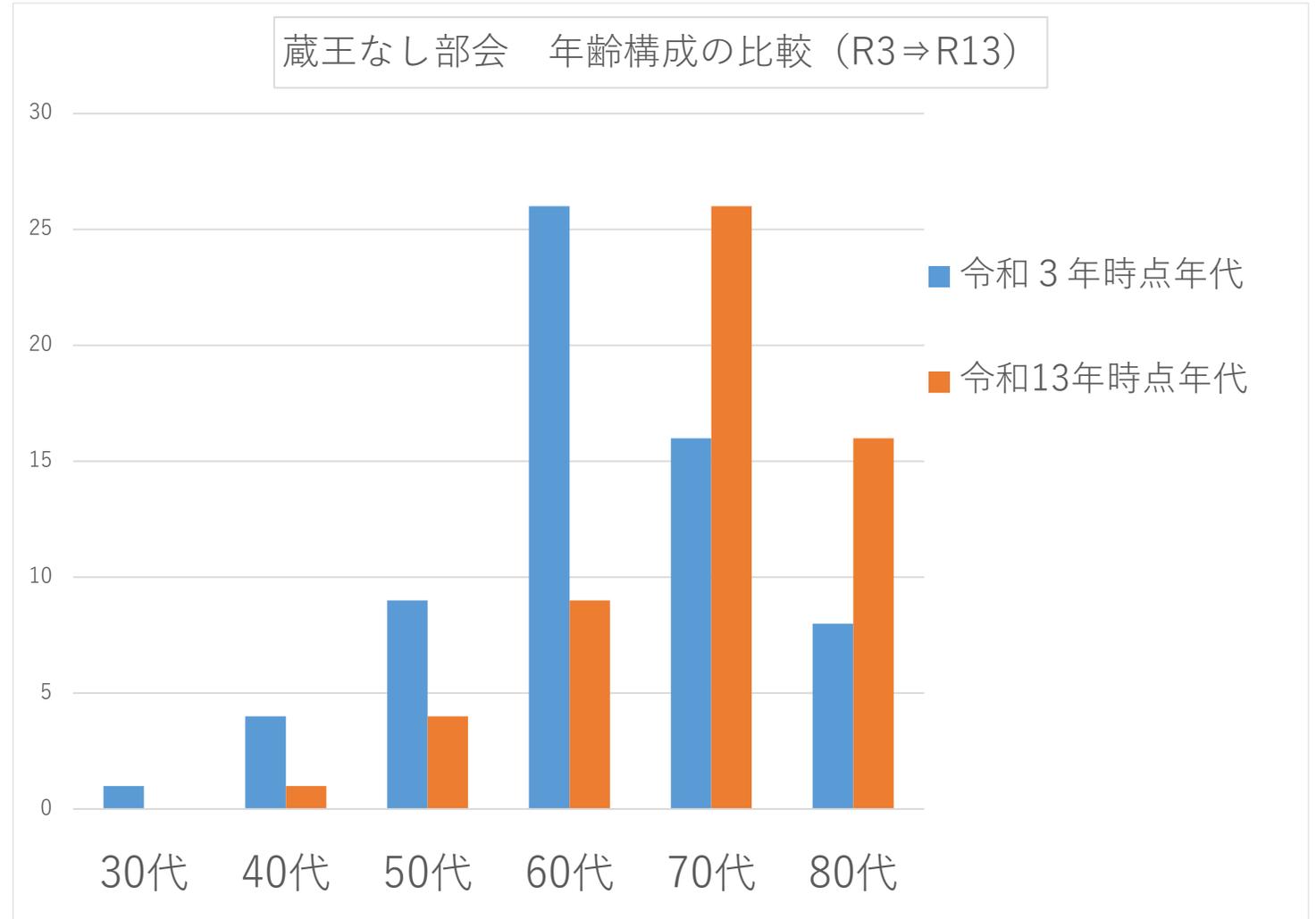
2. 対象者の概要

J Aみやぎ仙南蔵王なし部会
3人（部会員65名 平均年齢
66.6才）

R2の栽培面積：69ha（最
盛期であった平成11年は
106ha）

⇒約22年で37haの面積減
少

◎若手果樹生産者8人→
りんご4人・なし4人



3-1. 活動目標と活動事項（R3の取組）

（1）果樹産地の維持に向け，農家，JA，市町が一体となった担い手確保・育成の体制の検討が行われる。

・生産者の意向調査として蔵王65戸，角田10戸の全部会員に聞き取り調査を実施，現状把握と産地維持について意見を収集

・優良事例調査として，山形県大江町「OSINの会」及び山形の果樹農業法人の調査を実施。理想の流れを研究した。



OSINの会代表の渡辺氏から説明を受ける

3-1. 活動目標と活動事項（R4の取組）

（1）果樹産地の維持に向け，農家，JA，市町が一体となった担い手確保・育成の体制の検討が行われる。

◎優良事例研究の結果

給付金（準備型）の研修生受け入れ⇒技術と園地の継承が多い。

- 面積縮小を希望する農家の状況調査（昨年度の追加調査）17戸
⇒園地の貸し出しのタイミングが難しい

⇒研修生受け入れについて検討，受け入れ可能農家の確認
（これまでの意向調査により研修受け入れ可とした農家は約10戸）

研修受け入れ農家確保⇒研修しながら園地の継承を目指す

3-2. 活動目標と活動事項 (R3, R4)

(2) 若手果樹生産者における基礎的な知識と技術が習得され、農家同士の技術交流が行われる。



視察研修会の実施



りんごせん定講習会の実施

5. 今後に向けて

(1) 果樹産地の維持に向け、農家、JA、市町が一体となった担い手確保・育成の体制の検討が行われる。

⇒研修受け入れ農家の確保（蔵王1戸（確定）、角田1戸（予定））

⇒産地として研修受け入れ農家と研修生を応援する体制

（1/18 蔵王なし部会役員と蔵王町を交え検討会開催）

（角田果樹振興協議会として受け入れ先を支援）

••• 具体的には研修生を地域の果樹農家でもサテライト的に受け入れ

(2) 若手果樹生産者における基礎的な知識と技術が習得され、農家同士の技術交流が行われる。

⇒若手りんご農家が集まり、自主的な活動を行いたいとの希望あり！